

令和 5 年 5 月 8 日現在

機関番号：15201
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2018～2022
 課題番号：18K02147
 研究課題名(和文) 触法知的障害者に対する福祉的支援の支援特性に基づいた専門職間連携に関する研究

 研究課題名(英文) Research on interprofessional collaboration based on the support characteristics of welfare support for persons with intellectual disabilities who have committed crimes

 研究代表者
 京 俊輔 (Kyo, Shunsuke)

 島根大学・学術研究院人間科学系・准教授

 研究者番号：60441127
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は、2018年度に「元被疑者・被告人のサービス利用開始後における障害福祉サービス事業所による支援内容の検討」(『司法福祉学研究』第18号,村社卓との共著)、2020年度に「障害のある被疑者・被告人の受入に対する障害福祉サービス事業所職員の不安と不安軽減要因」(『社会福祉学』第61巻第1号,村社卓との共著)として発表した。また本研究の全体の成果は、岡山県立大学大学院保健福祉学研究科博士学位論文「障害福祉サービス事業所における障害のある被疑者・被告人の受入に関する研究」(博甲132号)にまとめた。コロナ禍の影響もあり計画通りの実施は難しかったが、本研究の目的は概ね達成できたと考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の目的は、司法と福祉の連携の元で、入口支援を通じて事業所の利用に至った触法知的障害者に対して取り組まれる、1)国内の司法と福祉の連携の元で取り組むソーシャルワーカーの支援特性および2)障害福祉サービス事業所の受け入れ時の不安とその解消のプロセス、3)各機関による事業所に対するフォローアップの構造とプロセスを定性的に明らかにし、両者の連携体制を検討するものであった。
 本研究で明らかにした、福祉、特に障害者福祉の側から見た司法と福祉の連携の構造とプロセスは、これからの司法と福祉の連携の実践および研究に対する新たな視点を提供することができた。

研究成果の概要(英文)：The results of this research were published in 2018, titled "Support of Former Defendants with Disabilities in Welfare Facilities for Disabled Persons" (Japanese Journal of Forensic-Social Services, No. 18, co-authored with Takashi Murakoso), and in 2020, "Anxieties and Anxiety-Reducing Factors of Welfare Service Facilities Staff Handling Persons with Disabilities Who are Suspects or Defendants in Court Cases" (Japanese Journal of Social Welfare, Vol. 61, No. 1, co-authored with Takashi Murakoso) announced as In addition, the overall results of this research were summarized in the doctoral dissertation of the Okayama Prefectural University Graduate School of Health and Welfare Studies, titled "Research on Acceptance of Disabled Suspects and Defendants at Disabled Welfare Service Facilities".
 Although it was difficult to implement as planned due to the impact of the corona crisis, we believe that the purpose of this research was largely achieved.

研究分野：社会福祉学

キーワード：司法福祉 入口支援 触法障害者 障害福祉サービス事業所

1. 研究開始当初の背景

を犯した高齢者や障害者に対する福祉的支援が全国的に展開している。福祉的視点で描かれるかれらは、知的障害や精神障害、発達障害などがあるだけでなく、逮捕された時点まで福祉との接点がほとんどないまま、家族からも友人からも見放された社会的孤立状態で生活してきた人たちである。またそういう環境で生活してきたかれらには、弁償できない、上手く反省の弁が述べられないために実刑となる確率が高いというバルネラビリティがあるといわれる。(Lindsay2002, 浜井 2012, 岩田 2013)

そうした背景をもつかれらに対し、こんにち司法福祉の分野で取組が始まっているのが、かれらを福祉的支援につなげ、生活の安定化を目指す取組である。その一つが刑務所出所者を対象とした出口支援である。出口支援は、2010 年度から「地域生活定着促進事業」として事業化されている。もう一つが起訴された高齢者や障害者(以下、被疑者・被告人)を福祉的支援につなげる入口支援である。入口支援は、2013 年度からは起訴された高齢者や障害者に対する支援が、検察庁、各都道府県の弁護士会、社会福祉士会、都道府県地域生活定着支援センター等の連携のもとで試行されている。被疑者時点で検察との連携のもとに進められる支援(中村 2015)から、起訴され被告人となった時点で弁護士と社会福祉士の連携のもとで取り組まれる支援など、国によって事業化されるまでには至っていないものの、全国各地で福祉的支援につなげることを試みる取組が広がりつつある(伊豆丸 2013, 松友 2016, 鈴木 2016)。

2. 研究の目的

本研究の目的は、司法と福祉の連携の元で、入口支援を通じて事業所の利用に至った触法知的障害者に対して取り組まれる、1)国内の司法と福祉の連携の元で取り組むソーシャルワーカーの支援特性および2)障害福祉サービス事業所の受け入れ時の不安とその解消のプロセス、3)各機関による事業所に対するフォローアップの構造とプロセスを定性的に明らかにし、両者の連携体制を検討するものであった。

3. 研究の方法

本研究はインタビュー調査と定性的(質的)コーディングを採用した。インタビュー調査は、調査対象者は触法知的障害者を受け入れた事業者を対象とした。一部の事業所や自治体等に偏らないように、都市と地方から広く選定した。分析方法は、定性的(質的)コーディングを用いた。

4. 研究成果

本研究の成果は、2018 年度に「元被疑者・被告人のサービス利用開始後における障害福祉サービス事業所による支援内容の検討」(『司法福祉学研究』第 18 号, 村社卓との共著) 2020 年度に「障害のある被疑者・被告人の受入に対する障害福祉サービス事業所職員の不安と不安軽減要因」(『社会福祉学』第 61 巻第 1 号, 村社卓との共著)として発表するとともに、岡山県立大学大学院保健福祉学研究科博士学位論文「障害福祉サービス事業所における障害のある被疑者・被告人の受入に関する研究」(博甲 132 号)としてまとめた。2021 年度には島根大学人間科学研究フォーラムに登壇し、「障害福祉サービス事業所における障害のある被疑者・被告人の受入に関する研究」本研究の成果を公表した。

本研究では、入口支援を通じて障害福祉サービスの利用に繋がった触法行為をした知的障害者を受け入れた障害福祉サービス事業所を調査対象とした。本研究の成果は、インタビュー調査を通じて得られたデータを定性的に分析し、受入の検討から支援実施の構造とプロセスを明らかにした点である。本研究の結果、受入時点で限定的であったソーシャルワークが、受入と同時に展開されていること、その過程を通じて職員の不安が軽減されていることも明らかにされた。

一方で研究報告には至っていないものの、島根県内の島根県弁護士会、松江保護観察所、島根県社会福祉士会、島根県精神保健福祉士協会をはじめ、島根県内にある司法や福祉に関する各機関や各種専門職が連携して入口支援などに取り組む「しまね更生支縁ネット」の活動に大きく寄与することができた。またコロナ禍であったことから、当初予定した海外での調査等は実施できなかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 京 俊輔	4. 巻 5
2. 論文標題 障害福祉サービス事業所における：障害のある被疑者・被告人の受入に関する研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人間科学部紀要	6. 最初と最後の頁 47-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 京 俊輔、村社 卓	4. 巻 61
2. 論文標題 障害のある被疑者・被告人の受入に対する障害福祉サービス事業所職員の不安と不安軽減要因	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会福祉学	6. 最初と最後の頁 1~16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24469/jssw.61.1_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 京 俊輔	4. 巻 -
2. 論文標題 障害福祉サービス事業所における障害のある被疑者・被告人の 受入に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 岡山県立大学大学院保健福祉学研究科 博士学位論文	6. 最初と最後の頁 1-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 京 俊輔、村社 卓	4. 巻 18
2. 論文標題 元被疑者・被告人のサービス利用開始後における障害福祉サービス事業所による支援内容の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 司法福祉学研究	6. 最初と最後の頁 60-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 京 俊輔
2. 発表標題 障害福祉サービス事業所における障害のある被疑者・被告人の受入に関する研究
3. 学会等名 第7回 人間科学研究フォーラム
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

第7回人間科学研究フォーラムを開催しました https://www.hmn.shimane-u.ac.jp/docs/2021101200012/
--

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------